

第55回愛媛・父母と教職員の教育研究会

2018年10月27日(土)

会場：ピュアフル松山(愛媛県勤労会館)

オープニングアトラクション

弾き語り：ガチャピンの相棒

★荒野に咲く花 ガチャピン(詩・曲・演奏)

♪ あなたこそ荒野に咲く花 麗しく 大地よりこの世に生受け
遅しく 無情の雨風何のその 今は不遇とて 仮の姿と思ふなら
信ずる道や 開かれり いざ君行かん 胸張りにて 胸張りにて
可憐な歌声 聞こえたり 雄々しき叫びや 聞こえたり ♪

★竹田の子守唄

守もいやがる 盆からさきにあ ~ ~ ~ ~ ~
この子よう泣く 守をばいじる ~ ~ ~ ~ ~
向うに見えるは 親のうち **みんなで合唱 ♪♪♪**



- 初めて聴きましたが、自分で顔がにこやかになっているのを感じました。『にこやかな顔=健康』と先日 TV で聴きましたので、今日は健康になれました。
- 「竹田の子守唄」は私と子どもにとって、とても大切な唄だったので、オープニングアトラクションで歌うことができうれしかったです。

開会あいさつ

越智 勇二さん：愛媛に民主教育をすすめる会 会長



7月の豪雨で亡くなられた方のご冥福と、被害を受けられた方のお見舞いを申し上げます。

障害者法定雇用率は中央省庁はじめ地方自治体も守られていませんでした。退職した人、眼鏡で矯正できる人、病休復帰者をカウントするなど、水増ししていました。中央省庁で3,700人、地方を含めると7,000人超が不足しています。学校現場では教員免許を持っている障害者を採用するとして、図書館司書、理科実験や技術・家庭科実習の補助員、特別支援学級の支援員、その他校務員など、知恵を絞れば雇用の場はたくさんあると思います。障害者は、一般的に根気強い人が多いと思います。脳の働きも、障害のない機能が特に発達するように思います。これまでの採用選考が、多くの応募者から障害や欠点を理由に排除することで選んできたのですが、それでは全ての職場で排除されれば生きていけません。これからの採用選考は、障害や欠点に惑わされるのではなく職業のために必要な能力だけに特化して選考すれば、多くの障害者も雇用できるし、それでも就職できない人には就職保障のための支援策を講じればよいと思います。

本日は、川口泰司さんからご講演をいただきます。被差別部落に対する、差別・偏見が社会に満ちていますから、学校生活、入学試験や就職選考、職場の労働環境など、共に生きるという理想が実現できていないのが現状です。現代は、インターネットや人工知能の技術など発達し続けています。現状の問題点を知り、どのように社会を変えていくかご講演を楽しみにしています。



講演

演題 「ネット社会と部落差別の現実」 ～ 『寝た子』はネットで起こされる！ ～

講師 川口 泰司さん (一社)山口県人権啓発センター 事務局長

【内容抜粋】

宇和島出身で、小・中・高と愛媛で育ちました。本当に多くの先生方に支えていただきました。2016年12月16日、部落差別解消推進法が施行されました。この法律ができた背景にはですね、ネット社会というもの、これが現実社会の差別の在り方を変えてきました。もっと言うと学校教育・社会教育の在り方を、考え直さなければならぬ時期にきている。平和教育・民主主義・人権、戦後積み上げてきた教育・社会がみごとに破壊されてきました。ネット社会と教育がどうあるべきか。考えていきたいと思います。

2002年に同和対策事業特別措置法が失効。空白の15年と言われました。同和教育から人権教育に変わり、ウイングが広がったのは、いいのですが、肝心要の部落差別の現実から遠ざかってきて、中・高校生に聞くと「今でもまだ、部落差別はあるんですか?」20代の若い先生は、人権教育世代の先生方。「部落差別はそっとしておいた方がいいのではないのですか。」水平社宣言でもう涙する世代ではない。10代、20代は知らない人が多い。いわゆる寝た子を起こすな。同和教育全盛期の先生方、良いも悪いも緊張感があった。地元のどこが、誰が同和地区か知っていました。部落差別のことは知っていた。今は、地区、誰が部落か分からない。そうした、落とし穴、「私は差別せんけん。学習しなくても大丈夫。」無関心なのです。



熱く語りかける川口さん

調べたいものがあれば、まずはネット検索です。活字の本とネットの違い、活字の方は誰が書いたかわかる。第三者のチェックが入る。厳しくおこなわれる。ネットは多くの人が検索すれば、上位になる。ほとんど上位の方しか見ない。それが正しい情報だと思う。ネットと活字では情報のスピードが違います。ネットに残った情報は消えない。ごく一部の人間が同じことをずっと発信し続けると上位になる。ネットは自分の見たい情報しか見ません。声なき声も可視化できる。一つの発信した情報がエネルギーをもって拡散していく。以前はLGBT、性的マイノリティーの差別問題、当時はそんな情報がなかった。ネットでは、同じ立場の人が励ます。そういうプラスの面もありました。

子どもたちが、スマホを持って真っ先に見るのが“YouTube”情報化社会、情報の質が変わってきた。蓄積される。発信され続けるとネットを使ってデマの拡散。クーグルマップ、便利な機能が差別に使われると最悪なのです。ネット社会における部落差別の深刻化、検索上位の危険性、デマ・フェイク情報、印象操作(削除不可能)。デマとわかるまで真実です。

今、分からないことがあるとネット検索です。“部落”で検索すると、めちゃくちゃ多いです。偏見・差別情報が氾濫しています。知恵袋(質問サイト)、差別を助長する回答が圧倒的に多い。3割は正しい回答が載っている。ネットには、すうーと入って行きます。自分にとって心地よい情報しか見ません。同じ価値観で見ます。口ら口への言葉は消えていきますが、ネットにはずっと残ります。

ネット版「部落地名総鑑」市町村別に載っています。電話帳で調べています。検索上位、広告も入っています。

- ・同和地区の所在地を地図化(Googleマップ、ストリートビューを利用)
- ・部落出身者リスト(市町村別の部落出身者の「苗字」を1万人以上)
- ・解放運動団体の役員・個人の名前・住所・電話番号等(1000人以上)公開

- ・同和地区の所在地を調べる方法を教示

結婚差別の教材のポイント、厳しさだけかハッピーエンドで終わる。どちらもダメですね。どれだけ、真実、知識教育を受けているかがポイントです。（中略）

正月、1通の年賀状が届きました。筆跡を隠すつもりか、左手で書いたのか震えた文字の表書き、年賀状なので消印はありません。どこから届いたのかわからない。年賀状は楽しみにしているんですね。第一発見者が小学5年生の娘でした。

“エタ死ね”と書いていました。「パパ大丈夫？」私は動揺した。「いたずらよ。」と言いました。「エタ」（被差別部落民の賤称語）って何？」なんて答える？耐えられなかった。まだ、歴史学習も始まっていない。「差別する人たちが、差別するためにつくった言葉。差別をなくすために講演しているんだよ。」と言いました。ネット上で「この差別ハガキは、川口の自作自演かもしれん。部落差別なんか無いのに、こんなことが起きるわけがない。」そんなデマが…。それがネットの怖さです。

ネット空間から現実社会へ、ヘイトスピーチ 2013年から2015年の3年間で1200回以上。北朝鮮に対して「拉致」など批判はあるでしょう。しかし、在日コリアンに対して、「死ね」「殺せ」「出て行け」という、全く議論するステージが違いますから。2011年1月22日、被差別部落のど真ん中ある、奈良の水平社博物館の前でヘイトスピーチをし、YouTubeにアップしています。それから、京都の初級学校。徳島県教組の書記局は松山の四国朝鮮初中級学校へカンパしたからという、朝鮮人に支援したからという理由で襲撃された。

ここで、14歳中学生が叫んだ大阪・鶴橋駅前のヘイトスピーチを聞いてください。

鶴橋に住んでいる在日くそチョンコ（朝鮮人の賤称語）のみなさん、こんにちは。ここにいる“チョンコ”が憎くて、憎くてたまらない人手をあげてください？（オーと手をあげる。）私ね、ほんま、みなさんが憎くて、憎くてたまらない。もう、殺してあげたい。みなさんも可哀想やし、私も憎いし。聞いてほしい。いつまでも調子に、のっつたら、南京大虐殺じゃなくて、鶴橋大虐殺を実行しますよ！日本人の怒りが爆発したら、それぐらいしますよ。大虐殺を実行しますよ！実行される前に、自国に戻ってください。ここは日本です。朝鮮半島じゃありません。いいかげん、帰りやがれ！

この報道は、全世界に広がり、ドイツではトップニュースでした。

“ビーカーの底に沈殿した泥…”

人権教育は、このビーカーをかき混ぜることであり、底にあった泥（差別心）が見えるようになって、その泥を取り除くことを繰り返すしかない。人権教育でこのことをしなかったら、泥は底に沈んだままで、見た目は綺麗で、差別がないように見えても、解決していないのだから、しっかり寝た子を起こして、差別を見抜いて、なくしていくことをしよう。

学校や家庭で“正しい情報”を発信していこう！！

そして、正しい情報を“拡散”していこう！！

もう『寝た子』を起こすなは通用しない。川口さんは強く訴えた。



会場の様子

著書紹介 … 『ネット上の部落差別と今後の課題』（共著、部落解放・人権研究所、2018年）

参加者感想

- ネット社会の到来で戦後の民主的な価値「平和」や「人権」「歴史認識」などが、突き崩されようとしているという。今日の講演は今の社会が直面している時代のひずみが重くのしかかってくるようでした。現代的レイシズムの波がネットの尖鋭化した差別や排外主義と相まって、私たちの日常に巣くっている様子を繰り返し事例を挙げて語ってくれたおかげで、時代の病巣とネット対応の方法との両面で啓発されました。情報満載の講演に改めて川口さんの存在の大きさ、解放運動のすばらしさ、深さに感銘を受けました。初期の吉田拓郎の曲に「古い船をいま動かせるのは古い水夫じゃないだろう〜♪」という歌詞がありましたが、むしろ古い水夫も新しい水夫も一緒になって時代の海を渡っていく必要があるのだなとも感じた講演でした。
- 私は同和教育、部落差別については親から教育されました。学校の授業で同和教育はありましたが、たくさん時間は無くて短時間。したがって記憶にないくらいです。子どもたちには私と主人で教育しました。学校やネットには頼らず理解している私たちが話をするのが確か。今後間違っている情報があったなら正していきたい。今日の講演を受けてさらに強く思いました。そしてネットの使い方、やはり正しく教え正しく調べることを教えていきたい！
- まさに自分が同和教育を調べるときに、ネットを使用していた方法をおっしやっていたので、知らないうちに誤った知識を身に付けていたのかなと思った。正直、部落差別って何？あるの？というレベルだったのでそれ自体が無関心だということに気付いていなかった。今後は少しずつ関心を持っていきたいと思う。
- 形式のみの部落解消法であってはならない!! 今もまだ差別の現実に悩む方が多いと聞く。学校教育で同和教育のなくなった現実、形式のみの学習で真の同和教育は同和教育推進教員のいた頃とは全く違っているように思える。川口さんの高校時代と現在の高校生の考えはどう変化しているのだろうか。純粋に同和教育を受けた川口さんの姿が思い出されます。プラスのサイクル気に入りました。
- 現実社会では許されない行為が、ネット上では、何ら規制するものが無く、あたりまえのようになっている現状にがく然とする思い。差別の実態が新たな時代を迎えている今、何らかの規制・罰則を設けること、被害者の人権侵害の救済を真剣に考える時期にきていると思う。
- ネット社会のメリット・デメリットを語られたうえでの話はとても良かった。どのように活用すべきか考えさせられた。今さら 20 年前には戻れない。ネット社会のモラル・ルールの見直し、人権教育の充実が必要であると思った。今日の参加者は高齢者が多く、少し難しかったかも…。
情報を見極める力をつける。← これは教育で解決するものなのか？
部落地名総鑑 → どうしていいのかわからないものを言うのはどうか…!!
プライバシーが守られた社会づくり。結婚差別…(プラスマイナス) どちら？同和教育の成果ありは良かった。ヘイトスピーチ対策法…カウンター投稿(ひとつの方法)。後半のポイントわかりやすかった。

子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう!

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会(研究会)を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

〒790-0813 松山市萱町6丁目42 コーポラスかやまち1F

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail jtuehime@lime.ocn.ne.jp

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

